

第4日

令和3年12月3日（金）

午後2時10分再開

○議長（半田雄三君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、1番仲山寛議員の質問を許可します。1番仲山寛議員。

（1番仲山 寛君登壇）

○1番（仲山 寛君） 皆さん、こんにちは。お疲れさまでございます。1番議員の仲山寛でございます。

公私ともお忙しい中、傍聴にお越しの皆様、ありがとうございます。また、インターネットを御覧の皆様、ありがとうございます。

新型コロナウイルス感染の緊急事態宣言措置が9月末に、福岡コロナ警報も10月14日に解除されました。市内のワクチン接種率も、2回終了の方が約68%となり、安心感も広まっていると思います。

しかしながら、これまで何度も言われていますが、現在、オミクロン株感染拡大の懸念が高まりつつあります。感染力が非常に強く、ワクチン効力も弱いと言われています。これから、年末年始を迎えますが、引き続き、3つの密を避け、マスク、手洗い、うがい等の行動をお願いしたいと考えています。

また、さらに深刻な問題は原油高騰です。原油高騰は私の私見ではありますが、消費税増税と同等の効力があると感じています。私たちの身近なもの全てにおいて油がかかわっています。灯油、ガソリンはもちろんですし、日常商品の原料や流通、農業では、全ての農業機械や施設園芸の重油等、ほとんどが油がかかわっています。

高騰が長期化すれば、だれかがその部分を背負わなければなりません。消費税と何も変わらんじゃないか。このままだと、経済の低迷は続き、デフレのままになると感じています。

このまま高騰が長期化すれば地方、特に、農業を主幹とする地方行政は衰退すると感じています。大変懸念するところです。トリガー条項の凍結解除を切に望んでいるところです。

今回は防災・農業ビジョンについて質問させていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、質問席にて質問を継続させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

（1番仲山 寛君降壇）

○議長（半田雄三君） 1番仲山議員。

○1番（仲山 寛君） 消防防災体制についてお伺いいたします。

自然災害が頻発化・激甚化する中、平成29年九州北部豪雨災害から5年目を迎え、河川

や砂防、ため池等の災害復旧工事が進み、ハード面での防災対策は概ね完了のめどが立ったととらえています。今後は、災害が発生しても、被害が最小となるようなソフト対策を充実していくことが大切になると思います。

防災についてお伺いします。

ソフト対策としては、発災直後における被害や混乱を最小限にとどめるためには、市民や自主防災会等、自分の命は自分で守る、自分たちの地域はみんなで守るという自助・共助の考え方を基本に、平常時から災害時に必要な物資を備蓄しておくことが最も重要であり、市民の備蓄意識の高揚を図るための普及啓発が必要だと思いましたが、市としてはどのように考えておられるか、取組をお聞きしたいと思います。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 市では、集中豪雨や地震、台風による大規模災害に備えまして、市民に対し、できれば、1週間分の食料や水、生活必需品を備蓄していただくことや、避難時に必要となるものを入れた非常持出袋を準備しておくことを、広報紙やホームページ、出前講座等で周知をするように努めております。

○議長（半田雄三君） 1番仲山議員。

○1番（仲山 寛君） なお一層の啓発に努めていただきたいと思います。

次に、市民の備蓄と併せて、公的な備蓄も重要だと思いましたが、市における備蓄の現状と考え方についてお尋ねをいたします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 市のほうでは、発災直後の生命維持や生活に最低限必要な食料や飲料水、毛布などの生活必需品、並びに避難所運営に必要な資機材を中心に備蓄をしております。

主なものは、食料や水が県の備蓄計画に沿って約1万4,000食分、毛布やタオルケットなどの寝具類が約1,200枚などです。これらの物資は、毎年使用した分を補充するようにしております。

○議長（半田雄三君） 1番仲山議員。

○1番（仲山 寛君） いろんな備蓄があると思いますけども、できるだけ多くのものを、大きな災害が起きたときには備蓄をしていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

また、平成29年の豪雨災害を経験した私たちは、常に防災に対する意識高揚に努め、備えには万全を期さなければと考えています。そのためには、もう一度、平成29年の豪雨災害や大型台風を想定した備えを、十分によくお願ひをしたいと思います。

次に、消防団活動の現状についてお伺いをします。

災害の多発化、激甚化が進む中、地域防災力の要となる消防団の役割は、ますます大きくなってきています。その一方で、団員数は、少子化や過疎化に伴い、市周辺部を中心に

減少していると聞いています。

そこで、消防団の活動内容と団員数の現状についてお伺いをいたします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 消防団は、地域における消防防災の中核的存在として、地域住民の安心・安全の確保のため、消火活動はもちろんのこと、風水害での救助・救出活動、警戒巡視、避難誘導などを行っております。また、平常時においても各種訓練、防火広報、地域行事への協力など、幅広い活動を行っております。

消防団員数の現状ですけれども、条例定数979名に対し、令和3年4月の実団員数は754名となっております、消防団員数は毎年減少傾向にあります。

○議長（半田雄三君） 1番仲山議員。

○1番（仲山 寛君） 次に、消防団員確保に向けた取組についてお伺いいたします。

消防団員確保に向けた取組については前回、9月定例会では、7番議員の鹿毛議員から、消防団員に対する様々な優遇措置について提案されていましたが、私も重要なことだととらえています。平成29年の豪雨災害時、消火活動や山間部での被災者救出、土のうの設置等、携わる消防団員を見て、改めて、消防団員の必要性を実感いたしました。消防団員が減少する一方、近年は風水害を中心とする災害が増え、消防団員に求められる役割の多様化や団員個人の負担増加があると聞いています。

そこで、消防団員の処遇改善について具体的に申し上げれば、団員報酬等の増額についてです。

消防庁では、団員階級の者については、年額報酬額3万6,500円、災害出動については、1日当たり8,000円を標準額とするんだそうです。市の考えをお尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 消防団員につきましては、全国的に頻発する災害を受けまして、その重要性が改めて見直され、国の消防団員の処遇等に関する検討会の最終報告でも、消防団員の士気向上や家族などの理解を促すために、年間報酬や出勤費等の処遇を見直すよう提言されているところです。朝倉市におきましても、こういった提言や近隣自治体の動向を踏まえながら、検討をしているところでございます。

○議長（半田雄三君） 1番仲山議員。

○1番（仲山 寛君） 朝倉市消防団は、平成29年の災害以降、火災出動のみならず、災害時の警戒活動や避難活動など、住民のために、他の行政の消防団以上に働いてくれていると考えています。ほかより高くとは言いませんが、せめて、ほかの自治体と同程度の処遇となるよう検討をお願いします。

改めて市長の考えをお聞きしたいと思います。

○議長（半田雄三君） 市長。

○市長（林 裕二君） 平成29年の大豪雨災害におきまして、消防団は命を顧みず、しか

しながら、団長を初めとする幹部職員が、自らの命も守れという中で、寝食を忘れて活動をしていただきました。

もとより、消防団は郷土愛の精神を持ち、かつ、住民の生命、身体、財産を守るという強い使命感を持つ中で、大切な時間を割いて、消防団の各種活動に精励をしてきていただいているところでございます。

議員が申されました、このことについて、総務部長が検討するとお答えをいたしましたけれども、私といたしましても、積極的に検討を進めていくということで考えておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（半田雄三君） 1番仲山議員。

○1番（仲山 寛君） ありがとうございます。よろしく願いをいたします。

消防団員の確保に向けては、消防団員に対する社会的理念、理解が促されることを大変重要だと考えていますので、そのことも踏まえて、団員各位への取組をお願いをいたします。

次に、消防団組織の在り方についてお伺いします。

先ほど、消防団員が定数割れをしており、年々減少をしているというお話でしたが、この状態をどう考えておられるか、消防団組織の将来的なビジョン等をどのように考えているか、お伺いをいたします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 地域によって状況は異なりますが、特に、山間部や過疎地域においては、消防団員の対象となる住民自体が減少しております。現在の条例定数を維持するのは困難な状況にあると認識しているところでございます。一方で、条例定数は、合併前の旧市町の定数をそのまま引き継いだものであり、地域の実情を踏まえた定数の見直しが必要であると考えております。

この問題については、消防団内に組織検討委員会を設置しまして、持続的に協議を行っております。現時点では、分団ごとに団員数の見直しと団員の負担軽減を行う方向で検討・協議していただくようお願いをしているところでございます。

これからの協議次第でありますけれども、いかにして消防力、災害対応力を維持しつつ、消防団員の負担軽減を図るかが最大の課題であると考えております。現役消防団員のみならず、消防署や消防団OB、地域の方々のお知恵もお借りしながら、新しい体制を構築していきたいと考えているところでございます。

○議長（半田雄三君） 1番仲山議員。

○1番（仲山 寛君） 消防団活動というのは、いろんな角度で社会的な役割を果たす最も重要な活動であるとだれもが認識をしているところでありますので、どうぞよろしく御検討をお願いしたいと思っております。

次に、朝倉市の農林行政施策についてお尋ねいたします。

コロナ禍における農業情勢についてお伺いいたします。

朝倉市の農業についての現状、特に水稻の状況についてお伺いします。

私は、農業問題を質問するときは、必ず、このことをまず、確認させていただいております。なぜなら、農業は自然を相手にする経営体であるからです。そのときそのとき、自然現象に大きく影響し、所得にダイレクトに反映してまいります。また、皆さんが現状を共有していただきたいと考えているからです。

同じ質問を何度もお聞きして大変恐縮ですが、御理解をいただきたいと思います。今現在のコロナ禍での朝倉市の農業の現状についてお答えをお願いしたいと思います。

○議長（半田雄三君） 農林商工部長。

○農林商工部長（武内政喜君） それではまず、水稻についてお答えをしたいと思います。

水稻につきましては、農水省によりますと、2021年産米の作況指数は全国で101、九州では99で平年並み、福岡県が98、筑後地方が98となり、昨年の収穫間近でのウンカ被害による不良から回復することとなっております。

田植え後の曇天続きによる日照不足や低温により、もみの数が少なかったものの、9月中旬以降、好天が続きましたので、もみの肥大と登熟が進み、収穫が高まったことが主な要因と考えられます。

しかし、コロナ禍によります外食産業の米の消費低迷によりまして、2020年産米の余剰在庫があること、また、東日本の2021年産米の作況指数は12の道県が100を超えたとなっているため、JAによりますと、今年産の概算払い金は昨年より少なくなる見通しとなっております。

他の主な作物では、大豆が七、八月の長雨、大雨が種まきの時期や開花の時期と重なったため、収穫量は平年より少ないと見込まれております。

野菜等につきましては、平均販売単価が2割以上減少した作物としまして、切り花、トマト、紅たで、青ネギ、ブロッコリー、レタス、キャベツ、お茶となっております。また、この秋以降、暖房加温機の燃料やビニール資材、肥料の単価が高騰しており、経営悪化の要因となっております。

冬野菜につきましては、秋口からの好天により、温かい日が続いたため、大根、白菜、キャベツ、レタスの生育が進み、価格が平年比の3割から4割安と低迷している状況となっております。

朝倉市農産物の消費拡大の取組としましては、昨年に引き続きまして、ファームステーションバサロと三連水車の里あさくらがタイアップしまして、高い割引の販売促進キャンペーンを行っており、今年度も販売の強化と集客力の向上に取り組んでいきたいと考えております。以上です。

○議長（半田雄三君） 1番仲山議員。

○1番（仲山 寛君） お米については、昨年からの在庫量が上積みされ、外食産業が低迷

し、大変懸念をしていました。

前回お聞きしたときは、朝倉のお米はほとんどが家庭で消費されていて、安定していると言われましたが、ふたをあけると、家庭用に東北のブランド米が流通している状況です。そのため、米の仮渡金も下がっているという情報です。

私が懸念するのは、朝倉の農業は米、麦が基幹作物であり、そのお米が収入減になれば、米を作る農家が減少し、大変な時代になると考えているからです。今後も動向を注視し、早めの対策を打ち出していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いします。

また、現在、世界の油が高騰を続けています。農業では、先ほども言いましたが、施設園芸が大変な痛手だと懸念しています。特に、イチゴ、ブドウ、桃、キュウリ、イチジク等、様々な施設園芸品目があります。今後の動向を十分に注意していただきたいと切に望みます。

次に、農業6次産業化について御質問をさせていただきます。6次産業化の意義、目的についてお伺いします。

6次産業化により、農産物を加工品として販売することで、所得向上につながり、後継者が増えるのではないかと考えているのは、私だけではないと思います。また、農家が加工品を作るだけで6次産業化といったこともよく聞きますが、本来の6次産業の意義、目的について質問をさせていただきます。

○議長（半田雄三君） 農林商工部長。

○農林商工部長（武内政喜君） まず、6次産業化とは、1次産業の農林漁業者が農産物などの生産物のもとと持っている価値をさらに高め、それにより、農林漁業者の所得を向上させていくということです。

生産物の価格を上げるためには、農林漁業者が農畜産物、水産物の生産だけでなく、2次産業の食品加工、3次産業の流通・販売にも取り組み、農林水産業を活性化させ、経済を豊かにしていくというもので、6次産業化という言葉の6につきましても、農林漁業本来の1次産業だけではなく、2次産業の工業製造、3次産業の販売・サービス業を取り組むことから、1次産業の1、2次産業の2、3次産業の3の掛け算で、1掛け、2掛け3で6ということで、6次産業に置くということを意味をしております。

例として挙げますと、イチゴ農家が自分で栽培したイチゴを市場に出荷したら、一応100円で売れましたと。それを、自分でイチゴを加工して作って、自分で売ったら500円の売上になったというようなこととなります。

このように、生産者が自分で作ったものを自分で加工して、自分で販売までするというのが6次産業という概要となります。以上です。

○議長（半田雄三君） 1番仲山議員。

○1番（仲山 寛君） 今言われたように、1次産業の農業に2次産業の加工、さらに、流通・販売戦略、これを掛け算するということでもあります。朝倉の農業が生き残るには、

これを行政やJA等の関係機関が積極的にサポートしなければ、朝倉の農業に未来はないと思っていますので、よろしくをお願いします。

次に、6次産業の取組についてお伺いします。

生産農家が6次産業化による加工品開発を行うに当たり、市の取組をお伺いいたします。

○議長（半田雄三君） 農林商工部長。

○農林商工部長（武内政喜君） 市が行っている取組について説明をいたします。

市が行っています6次産業化及び農産物加工品の取組につきましては、まず、市の単独補助事業として、朝倉市特産物振興、6次産業化推進事業があります。

直近では、平成28年度から令和2年度までに9件の実績があります。

内容としましては、パッケージデザイン、ジャム等の過熱殺菌処理機器、アイスクリーム製造機、ドライ製品用の乾燥機などを導入をしております。本年度につきましては、4件の農家が取り組む予定となっております。また、県・市の補助事業で6種類のフルーツ甘酒の商品開発を行う生産農家や認定農業者がワイン用のブドウ栽培施設の導入を計画をしております。

商品開発につきましては、多くの知識が必要であり、農作物を生産しながら、その知識、技術を習得するのは困難であると考えられますが、福岡県には、ふくおか6次産業化・農商工連携サポートセンターが設置されております。当センターでは、6次産業プランナーや農商工連携アドバイザーが、直接訪問をして、現地指導を行っておりますので、商品開発に取り組む生産者の方には、大いに活用してもらおうように進めているところです。

販売につきましては、市内の既存直売所が2か所ありますので、それを活用することで、生産農家の負担は少なくなるのではないかと考えております。以上です。

○議長（半田雄三君） 1番仲山議員。

○1番（仲山 寛君） 農業者がこの6次産業化に取り組むことは、大変ハードルが高いものがあると私は思っておりますので、行政やJAや普及所がもっと真剣に考えて、いろんな情報取得や勉強会や補助金等の調査や情報提供をしていって、セミナーや事例紹介、先進地紹介、そういう研修会や相談の窓口の広報活動を積極的に行い、普及指導を、やっぱりやっていっていただきたいと考えています。

先ほども言われましたとおり、幸いに、この朝倉市は流通・販売については三連水車の里あさくらやファームステーションバサロ等の販売戦略がございます。かなりこれは取り組みやすいのではないかと考えています。また、6次産業化は雇用も生まれます。どうか積極的な取組をやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いをしたいと思えます。

次に、農福連携事業についてお伺いをいたします。

農福連携事業の意義、目的についてお伺いします。

農業にはいろいろな役割があります。自然相手で癒されるし、土に触れることで精神的

に落ち着く、そんな働きのある場ではないかと考えています。お互いが認め合う社会、共生、そんな考えが現在、薄くなっていると感じています。

農福連携の目的、意義について質問をさせていただきます。

○議長（半田雄三君） 農林商工部長。

○農林商工部長（武内政喜君） それでは、農福連携について説明をいたします。

農福連携とは、障害者等の農業分野での活躍を通し、自信や生きがいを創出し、社会参画を促す取組であります。農業分野の課題である労働力不足の解消と福祉分野の課題である障害者等の就労先の確保、双方の課題を連携することによって解決していく取組です。

農業分野のメリットとしましては、農業労働力の確保や農地の維持・拡大、福祉分野のメリットとしましては、障害者等の雇用の場の確保、賃金等の向上による自立支援、生きがい等の創出等が考えられております。以上です。

○議長（半田雄三君） 1番仲山議員。

○1番（仲山 寛君） 次に、農福連携事業の現状についてお伺いします。

農福連携事業について、朝倉市の現状を教えてください。

○議長（半田雄三君） 農林商工部長。

○農林商工部長（武内政喜君） 朝倉市の農業構造につきましては、高齢化や担い手不足により、農家数は2010年の3,570戸から2020年の2,222戸で、1,348戸の減となっております。今後も減少することが予想され、労働力不足の深刻化が懸念をされております。

近年、農福連携の取組が全国的に盛んになっており、朝倉市においても、JA筑前あさくらが、市内の就労継続支援事業所と連携をしまして取組を行っております。作業内容としましては、博多万能ネギの調整作業となっております。

また、市としても、県が主催する農福連携研修会等に参加をしまして、今後の事業推進に向けて情報収集を行っているところです。以上です。

○議長（半田雄三君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（安丸千奈美君） それでは、私のほうからは、福祉の側からの現状についてお答えをいたします。

現在、10月末現在で障害者手帳の交付を受けている障害者の数が3,573名でございます。また、障害には身体、知的、精神の障害区分がございます。

市では、障害者の就労支援について、一般企業等への就職を希望する方や、一般企業等への就労が困難な方に対しまして、障害の状況に応じて、就労機会の提供や知識、能力の向上に必要な訓練を、事業所を通して行う障害福祉サービスを実施しております。

現在、このサービスの利用者が230名でございます。利用できる事業所は、市内に現在6か所、また、近隣自治体にも事業所がございます。

それから、朝倉市、筑前町、東峰村それぞれの社会福祉協議会及び北筑後保健環境事務所、朝倉公共職業安定所、医療機関、障害福祉サービス事業者により構成する朝倉地区障



害者等自立支援協議会の中に就労支援部会を設けておりまして、支援を行っております。

この就労支援部会は、一般企業や農業分野での障害者に対する理解を深め、障害者の雇用、障害者施設が受注できる業務の増加、それから、先ほどありました賃金アップなどにつながるような活動を行っております。

農福連携につきましては、令和元年度に市内のネギ部会からの作業依頼を受けまして、作業の見学、それから体験会を行いました。令和2年度にもイチゴのパック詰め作業の見学会を計画しておりましたが、こういった新型コロナウイルス感染症の影響によりまして、実施には至っておりません。しかしながら、継続して取組を行っているところでございます。

現在の課題として考えておりますのは、やはり、農業者と福祉関係者のマッチングをする場が少なく、どういった仕事ができるのか。一方は、どういった仕事があるのかわからないというように、お互いの理解がなかなか進まないというようなことで、そこが就労に結びついていかない点があるのかなというふうに考えております。

○議長（半田雄三君） 1 番仲山議員。

○1 番（仲山 寛君） それでは、朝倉市のこの農福連携事業の今後の取組について御質問をさせていただきます。簡単でいいですので、よろしくお願いをしたいと思います。

○議長（半田雄三君） 農林商工部長。

○農林商工部長（武内政喜君） 取組としましては、農福連携につきましては、労働力不足解消や農地維持、拡大、荒廃農地の防止等、農業課題の解決の1つの方策として、有効なものであると認識をしております。市でも、令和3年3月策定の第2次朝倉市食料・農業・農村基本計画に農福連携の推進を個別施策として位置づけているところです。

まずは、農福連携の一般的な認知度が低いことから、啓発に努めていきたいと考えております。具体的には、認定農業者の会において、研修会の実施などを考えております。今後は、農業分野と福祉分野相互の課題解決に向けまして、関係機関と連携を深めながら、農福連携の推進に取り組んでいきたいと考えております。以上です。

○議長（半田雄三君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（安丸千奈美君） 先ほど、課題として申し上げましたように、農業者と障害者が農福連携に関しますお互いのニーズへの理解を深めること、これが大事だというふうに考えております。

障害者のおおのの特性を生かした就労が可能となり、地域で自立した生活ができるよう、農業と福祉の分野で問題を共有していく、そういったことが必要であるというふうに考えております。

答弁が重なる部分もございますけれども、その1つとして、就労支援部会では、現在行っております作業の見学、体験による農福連携の取組を今後も継続をしております。併せて、就労セミナーなどに参加をいたしまして、部会委員自身の農福連携への理解を深め

ることも必要だというふうに考えております。

福祉の面から見ても、とにかく、できることから取組を行いまして、関係機関と連携をしていきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（半田雄三君） 1番仲山議員。

○1番（仲山 寛君） ありがとうございます。この字のごとく、やっぱり、連携が大変キーワードになってくるのかなと思いますので、やっぱり、農業と福祉のこのいろんなタックを頑張っていたきたいなと思っております。

私は、農業にはいろんな社会的な効力といいますか、価値と言いますか、非常に高いものがあると私は感じています。もちろん、農業には、多面的な機能というのは言うまでもありません。しかしながら、農業には、それをさらに超える精神的なものや物質的な喜び等の価値観が非常に高いことや、この地域との密接なかかわり、貢献度といいますか、それははかり知れないものがあると感じています。そういう理由から、私は家族農業の推進者であり、農業の持続性を強く願う1人であります。

昔から、最後は土へ帰るとか、老後は田舎暮らしですとか、子どもは泥遊びに夢中になるというように、人は土や自然に対して安心感と愛着を非常に感じるものです。障害者の方たちが生き生きと活躍できる朝倉市への第一歩を私たちがサポートしていきたいと強く考えていますので、どうかよろしく願いをしたいと思っております。

最後に、朝倉市の未来図についてということで、林市長にお伺いをいたします。

市長は、平成29年の九州北部豪雨災害後、平成30年4月から、ふるさと朝倉を取り戻すというスローガンで、災害復旧・復興に取り組まれてきました。

あれから約4年となろうとしています。災害復旧は進み、ある一定の見通しが立ってきていると私は感じています。しかし、朝倉市の未来図としては、まだまだではないでしょうか。やっと前に進むことができる足腰ができたぐらいだと考えています。

庁舎の問題や322号の駅前周辺の整備、朝農跡地問題、人口減少や高齢化の問題、先ほどの農業の問題や過疎対策、企業の誘致等々、朝倉市の抱える様々な課題、それも避けては通れない課題が山積みしていると私は感じております。

市長、単刀直入にお尋ねをいたします。

これら問題課題の解決に向けて、次期リーダーとなるべく、再度市長選に挑戦をされませんか。率直にお答えください。

○議長（半田雄三君） 市長。

○市長（林 裕二君） これまでのことを思い起こしますと、平成29年7月九州北部豪雨は大災害でありました。私は当時、県議会議員でありました。栗原県議とよく話し合い、力を合わせて災害対応に奔走をいたしました。こういうこともあってかと思えますけれども、福岡県では、九州北部豪雨災害からの復旧を最重要、県の課題として取り組んできていただきました。今日においても、そのような状況であるというふうに思っている次第で

ございます。

その後、翌平成30年3月に、当時の市長でありました森田氏から出馬できない。出馬断念という話を直接、言葉にならない言葉でお聞きをしました。彼の無念さを痛感し、災害から復旧して、強い元の朝倉を取り戻すという決意をそこでした次第であります。

そして、4月には市長に就任をさせていただきました。まさに、災害は本復旧どころではないと。再度災害防止と応急復旧の真っただ中ということでございました。その30年、翌31年、32年と続けざまに豪雨、それによる災害に見舞われたことであります。これは、想定外のことでございました。

私は先ほど言いましたように、先頭に立って朝倉を取り戻すということで、災害からの復旧に全力で取り組んでまいりました。困難さはありませんでしたが、少しずつではありますが、災害復旧は進んできたものというふうに考えております。

令和2年度に、復興計画に基づきまして、復興実施計画を策定いたしました。これには地域の皆さん方の声をしっかりと聞く中で、復興計画を策定をいたしました。少しずつではありますが、朝倉を取り戻すということが進んできたものという認識がございます。

申し上げましたように、全力で災害復旧、そして復興に向かう中、財政、そして職員を災害関連にシフトをいたしました。そういう状況ではございましたけれども、災害以外の市の課題解決、市の事業の推進については、でき得る限り頑張ってきたつもりでございます。しかしながら、現在の朝倉市を見たときに、まだまだ課題は山積をしております。大きな課題がここにはあるということでもあります。

そして、朝倉市だけではございませんが、全国あるいは世界中、新型コロナウイルス感染、このことについては、いまだに終息のめどが立っていないというふうなのが現状でございます。

このようないろいろなことをよく考え、次期市長選挙には立候補すべきであるという判断、決意をしたところでございます。ぜひいま一度、朝倉市のかじ取りを私にやらせてください。そして、災害復旧・復興を成し遂げ、朝倉を完全に取り戻させていただきたい。そして、これからの市の課題であります人口減少に歯止めをかけ、地方創生のいろんな分野における取組について、ぜひ議員が言われました朝倉市の未来図を描きたいと。凍結しております大型事業についても、状況判断をしながら、1つずつ前に進めていきたいと、そのように強い決意を持って今後臨みたいというふうに思う次第でございます。

私の現在の来春の選挙に向けての考え方を述べさせていただきました。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

○議長（半田雄三君） 1番仲山議員。

○1番（仲山 寛君） ありがとうございます。

今、今後の意志、朝倉市の未来図へ向けての林市長の力強く御意見を語っていただきま

した。来年4月の選挙において再選され、2期目の市政運営を付託されました場合には、市民と行政が一体となったまちづくり、次世代に誇れる魅力的なまちづくりに取り組まれるとともに、多くの行政課題や問題に対して、市一体で迅速に取り組まれ、朝倉市のより一層の発展をめざしていかれますことを期待しています。

市長におかれましては、今後も全力で朝倉市のかじを取っていただきますよう、また、健康に留意され、行政運営を遂行されますことをお願いし、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（半田雄三君） 1番仲山寛議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午後3時15分に再開いたします。

午後3時2分休憩